

## 日本語の複合連体助詞「へノ」に対応する中国語の形式

楊, 雯嬾  
九州大学大学院地球社会統合科学府

<https://doi.org/10.15017/2348688>

---

出版情報：地球社会統合科学研究. 11, pp.89-98, 2019-09-25. Graduate School of Integrated Sciences for Global Society, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

# 日本語の複合連体助詞「へノ」に対応する中国語の形式

ヨウ 楊  
 アン ラン  
 雯 瀾

## 1. はじめに

本稿では、日本語の複合連体助詞「へノ」を取り上げ、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式にどのようなものがあるかを考察する。この「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」の中国語における対応形式については、NP<sub>2</sub>が「モノ名詞」の場合について、陳(2009)、劉(2013)の研究がある。しかし、NP<sub>2</sub>が「モノ名詞」以外の場合は全く言及されておらず、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式の全貌はまだ解明されていない。

本稿では、筆者が作成した『「へノ」日中対訳コーパス』<sup>1</sup>の用例を用いて、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式を明らかにする。その後、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式をいくつかのタイプに分類し、それらの特徴を明らかにする。その結果は、日本語の複合連体助詞「へノ」の習得に困難を覚える中国語を母語とする日本語学習者に対する「へノ」の適切な指導法の一助になると同時に、複合連体助詞「へノ」の意味的特徴をも明らかにすることになると考える。

## 2. 日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

日本語の複合連体助詞「へノ」は格助詞「へ」に連体助詞「ノ」が付加されたものである。格助詞「へ」には主に①方向、②対象、③場所の目的地を表示する機能がある(国立国語研究所1951、日本語教育学会1993、高橋2005)。この日本語の格助詞「へ」に対応する中国語の形式は、先行研究によれば、介詞となることもあれば、動詞となる場合もあるとされている(劉2013)。また、連体助詞「ノ」は「NP<sub>1</sub>+ノ+NP<sub>2</sub>」のように2つの名詞あるいは名詞相当語句を結び付ける働きをすれば、水野(1993)によれば、「ノ」と「的」の用法に見られる共通点は、2つの名詞あるいは名詞相当語句を結び付ける働きをすることである。

以下では、まず2.1で「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式を概観し、2.2、2.3、2.4で各対応形式に關

する詳細を述べる。

### 2.1 日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式の概観は、次の図1になる。

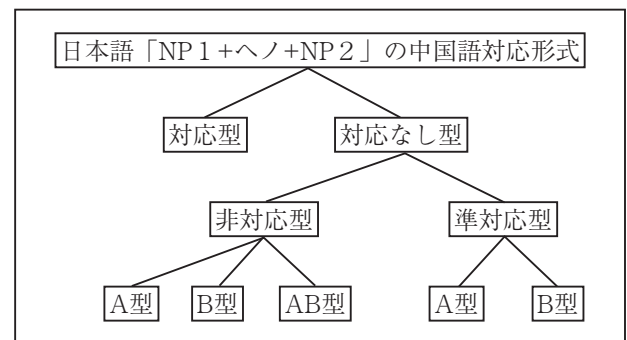


図1 「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式概観

図1が示すように、日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式は、「対応型」、「非対応型」、「準対応型」の3つに大別することができる。また、「非対応型」は、さらに「非対応A型」、「非対応B型」、「非対応AB型」の3種類に下位区分され、同様に「準対応型」も、「準対応A型」と「準対応B型」の2種類に下位区分される。本コーパス中の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」の具体的な用例数とその典型例は表1ようになる。

表1 日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式の用例数および典型例

対応関係	用例	中国語形式	用例数
対応型	OLへの視線	对OL的目光	4
非対応A型	世界への道	向世界[通往]的路	268
非対応B型	大学への進学	向大学升学	979
非対応AB型	市場への出荷	向市场[发]的货向市场发货	9
準対応A型	母への手紙	给母亲的信/ 给母亲[寄]的信	896
準対応B型	子供への援助	对孩子的援助/ 对孩子援助	198
合計			2354

表1によれば、「対応型」、「非対応 AB 型」の数は極めて少なく、次に、「非対応 B 型」、「準対応 A 型」、さらに、「非対応 A 型」、「準対応 B 型」の順になることが分かる。以下では、これらのタイプの詳細を見ていく。

**2.2 「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式：対応型**

「対応型」とは、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」における格助詞[へ]が中国語の介詞<sup>2</sup>[对]<sup>3</sup>、また、連体助詞「ノ」が中国語の構造助詞[的]<sup>4</sup>に対応するものを指す。この日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」と中国語の対応形式は、図2のように示すことができる。

日本語：NP <sub>1</sub> + [へ] [ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語：[对]+NP <sub>1</sub> + [的]+NP <sub>2</sub>
日本語例：OL [へ] [ノ] 視線
中国語例：对 OL 的 目光

図2 「対応型」の日本語と中国語の対応関係

図2が示す対応関係を具体的に示す例は以下のとおりである<sup>5</sup>。

- (1) OLへの視線に注意!
- (1)' 对 OL 的 目光
- (2) 環境や教育への視座が問われる昨今、今後の活動に期待がかかる。
- (2)' 对环境、教育的观点

(1)「OLへの視線」の格助詞[へ]は対象を示す機能を持っているが、それに対応する中国語は介詞の[对]、また、連体助詞[ノ]は中国語の[的]に対応している。(2)も(1)と同様である。本稿では、このように「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」における格助詞[へ]と連体詞[ノ]が介詞[对]と構造助詞[的]に対応するものを「対応型」と呼ぶことにする。本稿のデータベースの中では、「対応型」の例は極めて少なかった。しかしながら、この「対応型」に相当する「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」のNP<sub>2</sub>が「視線」「視座」「観点」「立場」といった特定の名詞になる点は看過できない。

**2.3 「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式：非対応型**

本節では「非対応型」について見る。「非対応型」とは、先に見た対応型とは異なり、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」における格助詞[へ]と連体詞[ノ]が介詞[对・给・向・到]と構造助詞[的]に完全には対応しないものである。こ

の「非対応型」はその非対応のパターンによって、「非対応A型」、「非対応B型」、「非対応AB型」の3種類に分けられる。

**2.3.1 非対応A型**

「非対応A型」とは、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」が中国語の「介詞[对・给・向・到]+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞[的]+NP<sub>2</sub>」に対応するものである。このタイプの特徴は、日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」には存在しない動詞が対応する中国語では必須となる点である。その対応関係は、図3aと図3bのように示すことができる。

日本語：NP <sub>1</sub> + [へ] [ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語：*[向]+NP <sub>1</sub> + [的]+NP <sub>2</sub>
[向]+NP <sub>1</sub> + 动词+ [的]+NP <sub>2</sub>
日本語例：世界+ [へ] [ノ]+道
中国語例：*[向]+世界+ [的]+道路
[向]+世界+前进+ [的]+道路

図3a 「非対応A型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

図3aは日本語「世界へノ道」に対応する中国語の形式である。図3aに明らかなように、中国語の対応形式では、NP<sub>1</sub>「世界」とNP<sub>2</sub>「道(道路)」の間に介詞「向」を取ることでできる動詞「(進む)」に対応する中国語(前进)が挿入されなければならない。一方、図3aの中国語の形式を改めて日本語にしてみると図3bになる。

中国語：[向]+NP <sub>1</sub> + 动词+ [的]+NP <sub>2</sub>
日本語：*NP <sub>1</sub> + [へ]+動詞+[ノ]+NP <sub>2</sub>
NP <sub>1</sub> + [へ]+動詞+NP <sub>2</sub>
中国語例：[向]+世界+前进+ [的]+道路
日本語例：*世界+ [へ]+進む+[ノ]+道

図3b 「非対応A型」の日本語と中国語の対応関係：図3aの中国語の形式に対応する日本語の形式

図3bは図3aの中国語の形式を日本語に対応させたものであるが、「世界へ進むノ道」は日本語としては明らかに非文であり、対応する中国語の形式のようにNP<sub>1</sub>とNP<sub>2</sub>の間に動詞を挿入するには連体助詞「ノ」を削除しなければならない。以下、この「非対応A型」のNP<sub>2</sub>を「モノ名詞」<sup>6</sup>、「ヒト名詞」、複数の名詞からなる「複合形」の3種類に分け、具体例を見ていく。なお、対応する中国語にある括弧([ ])は動詞を示す。

● NP<sub>2</sub>が「モノ名詞」の場合

- (3) 現在、「読売新聞（衛星版）」に「戦後・再起への道」を連載中。
- (3)' 向戦后再起 [前進] 的 道路  
(戦後・再起へ進む道)
- (4) 海外からベルギーへの電話は国番号のあと市外局番の最初の0を取ってダイヤルしてください。
- (4)' 从海外向比利时 [打] 的 电话  
(海外からベルギーへかける電話)
- (5) 捜査への支障が薄らいだ
- (5)' 对调查 [产生] 的 障碍  
(捜査に生じた支障)
- (6) 見えない脳への後遺症が残り (…)
- (6)' 对看不见的大脑 [留下] 的 后遗症  
(見えない脳に残った后遗症)

● NP<sub>2</sub>が「ヒト名詞」の場合

- (7) ニューヨークへの観光客は激減していましたが、(…)
- (7)' 到纽约 [旅游] 的 客人  
(ニューヨークに行つて観光する客)
- (8) 国民への奉仕者という意識付けが大切、(…)
- (8)' 对国民 [服务] 的 人  
(国民に奉仕する人)
- (9) 羽生善治竜王への挑戦者は阿部隆七段、(…)
- (9)' 向羽生善治龙王 [挑战] 的 人  
(羽生善治竜王に挑戦する人)

● NP<sub>2</sub>が「複合形」の場合

- (10) 交通インフラ分野への援助総額
- (10)' 向交通基础设施领域 [援助] 的 总额  
(交通インフラ分野に援助する総額)
- (11) 万博会場へのアクセス手段として注目度の高いリニモ (愛知高速鉄道)。
- (11)' 向万博会场 [通往] 的 方式  
(万博会場にアクセスする手段)

(3) から (11) のいずれにおいても、中国語の形式にとって挿入された動詞は必須であり、削除することはできない。

2.3.2 非対応B型

「非対応B型」は、日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」が中国語「介詞 [対・給・向・到]+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>」に対応する動詞に対応するものである。このタイプの特徴は、NP<sub>2</sub>が出来事を表す名詞（以下、「出来事名詞」<sup>7</sup>と呼ぶ）という点にある。「非対応B型」の日本語と中国語の対応関係は図4a、図4bようになる。

日本語： NP <sub>1</sub> + [へ] [ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語： *[向]+NP <sub>1</sub> + [的]+NP <sub>2</sub>
[向]+NP <sub>1</sub> +NP <sub>2</sub> に対応する動詞
日本語例： 大学 [へ] [ノ] 進学
中国語例： *[向]+大学+ [的]+升学
[向]+大学+升学

図4a 「非対応B型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

図4aが示すように、「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」という日本語をそのまま中国語に対応させることはできない。それを適切な中国語にするならば、格助詞「へ」は中国語の「向」に対応させることができるが、連体助詞「ノ」に対応する形式は出現しない。しかし、このタイプにおける日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」とそれに対応する中国語の形式のもっとも大きな違いは、日本語のNP<sub>2</sub>が中国語では動詞になるという点である。つまり、「非対応B型」では、日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」は中国語の「NP<sub>1</sub>へNP<sub>2</sub>スル」という動詞句に対応することになるのである。それは図4aの中国語を日本語に対応させた図4bを見ると明らかである。

中国語： [向]+NP <sub>1</sub> +NP <sub>2</sub> に対応する動詞
日本語： NP <sub>1</sub> + [へ] +NP <sub>2</sub> に対応する動詞 (コト)
中国語例： [向]+大学+升学
日本語例： 大学+ [へ] +進学する(コト)

図4b 「非対応B型」の日本語と中国語の対応関係：図4aの中国語に対応する日本語の形式

ここで注目すべきは、中国語の対応形式には、図4bの丸括弧で示されている形式名詞「コト」に対応するものがないという点である。以下、具体例を見られたい。

- (12) 支援会議への参加を一時拒否されたNGO
- (12)' 到支援会议 参加  
(支援会議へ参加する)
- (13) 日本の中国への輸出と投資を大幅に増加させるこ

と。

- (13) 向中国出口  
(中国へ輸出する)
- (14) インター校卒業生の進路として一番多いのは海外の大学への進学である。
- (14) 向海外大学升学  
(海外の大学に進学する)
- (15) 学生の将来設計と関連づけて父母への情報伝達に力を入れている。
- (15) 向父母传达情报  
(父母へ情報を伝達する)

(12) から (15) の例から分かるように、「非対応B型」の中国語形式を日本語にするといずれも動詞になる。このように、複合連体助詞に後続する名詞、すなわち、NP<sub>2</sub>が「出来事名詞」の場合、対応する中国語形式が動詞と解釈されるという点は、管見の限り、指摘されたことはない。

### 2.3.3 非対応 AB 型

「非対応AB型」とは、日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」が中国語の非対応A型「介詞[対・給・向・到]+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞[的]+NP<sub>2</sub>」と非対応B型「介詞[対・給・向・到]+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>に対応する動詞」のいずれにも対応するものを指す。

「非対応AB型」の特徴は、NP<sub>2</sub>は日本語と同一の形式であるが、対応する中国語の形式は文脈によって名詞と解釈されることもあれば、動詞と解釈されることもある点である。つまり、「非対応AB型」は、文脈によって、上で見た「非対応A型」と「非対応B型」のいずれにもなるものと言える。「非対応AB型」の日本語と中国語の対応関係は図5a、図5b、図6a、図6bのようになる。

日本語：NP <sub>1</sub> +〔へ〕〔ノ〕+NP <sub>2</sub> 中国語：*[向]+NP <sub>1</sub> +〔的〕+NP <sub>2</sub> [向]+NP <sub>1</sub> +動詞+〔的〕+NP <sub>2</sub> 日本語例：市場〔へ〕〔ノ〕出荷 中国語例：*[向]+市場+〔的〕+发货 [向]+市場+发+〔的〕+货
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図 5a 「非対応 AB 型」の「非対応 A 型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

中国語：[向]+NP <sub>1</sub> +動詞+〔的〕+NP <sub>2</sub> 日本語：*NP <sub>1</sub> +〔へ〕+動詞+〔ノ〕+NP <sub>2</sub> 中国語例：[向]+市場+发+〔的〕+货 日本語例：*市場+〔へ〕+送る+〔ノ〕+品物
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図 5b 「非対応 AB 型」の「非対応 A 型」の日本語と中国語の対応関係：図 5a の中国語に対応する日本語の形式

図 5a は先に見た「非対応A型」の図 3a、図 5b は「非対応A型」の図 3b と同じものである。

日本語：NP <sub>1</sub> +〔へ〕〔ノ〕+NP <sub>2</sub> 中国語：*[向]+NP <sub>1</sub> +〔的〕+NP <sub>2</sub> [向]+NP <sub>1</sub> +NP <sub>2</sub> に対応する動詞 日本語例：市場〔へ〕〔ノ〕出荷 中国語例：*[向]+市場+〔的〕+发货 [向]+市場+发货
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図 6a 「非対応 AB 型」の「非対応 B 型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

中国語：[向]+NP <sub>1</sub> +NP <sub>2</sub> に対応する動詞 日本語：NP <sub>1</sub> +〔へ〕+NP <sub>2</sub> に対応する動詞 (コト) 中国語例：[向]+市場+发货 日本語例：市場+〔へ〕+出荷する(コト)
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

図 6b 「非対応 AB 型」の「非対応 B 型」の日本語と中国語の対応関係：図 6a の中国語に対応する日本語の形式

図 6a は先に見た「非対応B型」の図 4a、図 6b は「非対応B型」の図 4b と同じものである。このように、日本語の「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式が「非対応AB型」になる場合の特徴は、次の例に明らかのように、NP<sub>2</sub>がある対象(モノ)をある到達点へ移動させることを示す「出来事名詞」である点にある。

- (16) 先週、市場へノ出荷は少なかった。
- (16) 向市場〔发〕的货
- (17) 徳島県でスダチの市場へノ出荷を7日までの3日間、停止することを決めた。
- (17) 向市場发货
- (18) 投書欄への投稿が採用されないのはなぜ。
- (18) 向投稿栏〔投〕的稿
- (19) ラジオ番組への投稿をきっかけに家族みんなが作るようになった川柳は、(…)



- (19)' 向广播节目投稿  
 (20) 鈴木氏の発言への反論も出た。  
 (20)' 对铃木的发言[反对]的言论  
 (21) 鈴木氏の発言への反論は止まらなかった。  
 (21)' 对铃木的发言反论

日本語：NP <sub>1</sub> +[へ][ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語：動詞[给]+NP <sub>1</sub> +[的]+NP <sub>2</sub>
日本語例：母 [へ][ノ] 手紙
中国語例：動詞[给]+母亲+[的]+信

図7a 「準対応A型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

(16) (17)の「出荷」は(16)'が示すように「非対応A型」に対応することもあれば、(17)'のように「非対応B型」に対応することもある。「非対応A型」に対応する場合、「出荷」は「出荷されたモノ」と解釈され、「非対応B型」に対応する場合、「出荷」は「出荷するコト」という出来事として解釈されている。同様のことは、(18) (19)の「投稿」についても言える。(18)'のように「非対応A型」に対応する場合、それは「投稿されたモノ」を意味し、(19)'のように「非対応B型」に対応する場合は「投稿するコト」を意味する。ただ、「出荷」と比べ「投稿」の場合は、対象物の到達点が「投書欄」「ラジオ番組」のように具体的な場所ではない点異なる。一方、(20) (21)の「反論」が「非対応A型」に対応する場合、「反論」は「反論の内容」「非対応B型」に対応する場合、「反論」は「反論するコト」と解釈される。この「反論」は、その対象となる「モノ」、また、それが表す「コト」およびその到達点のいずれにおいても抽象度が高いと言える。

図7aの中国語の「给」はこれまで見てきたような介詞ではなく、「に与える」という意味の動詞として解釈される。この図7aの中国語を日本語にすると図7bになる。

中国語：動詞[给]+NP <sub>1</sub> +[的]+NP <sub>2</sub>
日本語：*NP <sub>1</sub> +動詞[に与える]+[ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語例：動詞[给]+母亲+[的]+信
日本語例：*母+[に与える]+[ノ]+手紙

図7b 「準対応A型」の日本語と中国語の対応関係：図7aの中国語に対応する日本語の形式

## 2.4 「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式：準対応型

本節では「準対応型」について見る。本稿における「準対応型」とは、これまで中国語の介詞に対応していた日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」の格助詞「へ」の部分为中国語の動詞に対応するパターンを指す。つまり、このパターンの語列は形式だけを見ると「対応型」と同一であるが、「対応型」で介詞であったものが動詞として機能しているということである。この「準対応型」にも「準対応A型」と「準対応B型」の2種類がある。

図7bが示すように、図7aの中国語に対応する日本語の形式は「非対応A型」の中国語に対応する日本語の形式と同様、動詞の直後に連体助詞「ノ」が置かれることから、非文になる。

「给」が介詞として機能する場合には、図7cが示すように、NP<sub>1</sub>とNP<sub>2</sub>の間には動詞の「寄(送る)」を挿入する必要がある。この図7cは「非対応A型」の図3aと同じパターンである。

### 2.4.1 準対応A型

「準対応A型」とは日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」が、中国語の「動詞[対・给・向・到]+NP<sub>1</sub>+構造助詞[的]+NP<sub>2</sub>」と先に見た非対応A型「介詞[対・给・向・到]+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞[的]+NP<sub>2</sub>」のいずれにも対応するものを指す。以下、「準対応A型」の日本語と中国語の対応関係を示すと図7a、図7bになる。

中国語：介詞[给]+NP <sub>1</sub> +動詞+[的]+NP <sub>2</sub>
日本語：*NP <sub>1</sub> +[へ]+動詞+[ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語例：介詞[给]+母亲+寄+[的]+信
日本語例：*母+[へ]+送る+[ノ]+手紙

図7c 「準対応A型」の日本語と中国語の対応関係：「给」が介詞として機能する際の中国語に対応する日本語の形式

以下、「準対応A型」の具体例をあげる。

- (22) 現状への不満がある。  
 (22)' a. 对现状的不满  
           (現状に対する不満)  
           b. 对现状[抱有]的不满  
           (現状に対して抱いている不満)  
 (23) 2年後くらいから、人間への効果確かめたい。  
 (23)' a. 对人体的效果  
           (人間に対する効果)

- b. 对人体 [产生] 的效果  
(人間に生じる効果)
- (24) 神田古書店、神楽坂「田原屋」で洋食弁当と果物、  
妻への土産なり。
- (24)' a. 给妻子的**特产**  
(妻に与える土産)
- b. 给妻子 [送] 的**特产**  
(妻に送るお土産)
- (25) 母への**愛情**を感じました。
- (25)' a. 对母亲的**爱**  
(母に対する愛)
- b. 对母亲 [表达] 的**爱**  
(母に対して表す愛)

(22) から (25) に明らかなように、「準対応型A型」のNP<sub>2</sub>は「モノ名詞」である。一方、日本語に対応する(22)' から (25)' の中国語の形式のうち、aは上の図7a、また、bは図7cのパターンに対応したものを示している。これらの例のうち、aに関して、本稿は、これまで介詞として機能していた語が動詞として機能していると解釈してきたが、同様の指摘は陳 (2009)、劉 (2013) にも見られる。

陳 (2009:33) は、「给朋友の电子邮件 (友達へのEメール)」と「对美国做法的疑问 (アメリカのやり方への疑問)」の2つの例をあげながら、「给」と「对」は、連体構文で述語の一部として機能することができると述べている。また、劉 (2013:179) は、「对他的态度/感情/意见 (彼への態度/感情/意見)」の例をあげながら、「对」などの限られた語がそのまま連体修飾語を形成する場合、その語は介詞でなく動詞として機能していると述べている。

#### 2.4.2 準対応B型

「準対応B型」とは日本語「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」が、中国語の「動詞 [对・给・向・到] +NP<sub>1</sub>+構造助詞 [的] +NP<sub>2</sub>」と先に見た非対応B型「介詞 [对・给・向・到] +NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>」に対応する動詞のいずれにも対応するものを指す。以下、「準対応B型」の日本語と中国語の対応関係を示すと図8a、図8b、図8cになる。

日本語：NP <sub>1</sub> + [へ] [ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語：動詞[对]+NP <sub>1</sub> + [的]+NP <sub>2</sub>
日本語例：子ども+ [へ] [ノ]+援助
中国語例：動詞[对]+孩子+ [的]+援助

図8a 「準対応B型」の日本語と中国語の対応関係：「NP<sub>1</sub>+へノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式

中国語：動詞[对]+NP <sub>1</sub> + [的]+NP <sub>2</sub>
日本語：*NP <sub>1</sub> +動詞[に対する]+ [ノ]+NP <sub>2</sub>
中国語例：動詞[对]+孩子+ [的]+援助
日本語例：*子ども+ [に対する]+ [ノ]+援助

図8b 「準対応B型」の日本語と中国語の対応関係：図8aの中国語に対応する日本語の形式

中国語：介詞[对]+NP <sub>1</sub> +NP <sub>2</sub> に対応する动词
日本語：NP <sub>1</sub> + [へ] +NP <sub>2</sub> に対応する動詞 (コト)
中国語例：介詞[对]+孩子+援助
日本語例：子ども+ [へ] +援助する(コト)

図8c 「準対応B型」の日本語と中国語の対応関係：「对」が介詞、NP<sub>2</sub>に対応する中国語形式が動詞の場合

図8aの「子供への援助」に対する中国語「对孩子的援助」の「对」は動詞である。動詞としての「对」は概ね日本語の「に対する」に相当する。したがって、それに対応する日本語は図8bが示すように「に対する」となる。この日本語は、「準対応A型」の図7bの場合と同じく、動詞の直後に連体助詞「ノ」が置かれているため、非文になる。一方、同じ「对」が介詞として用いられた場合のパターンは図8cになる。このとき日本語のNP<sub>2</sub>「援助」に対応する中国語は動詞になる。以下、「準対応B型」の具体例を見るが、そのNP<sub>2</sub>は「非対応B型」と同じく「出来事名詞」となる。

- (26) 友人たちへの取材は、意外なほどたやすかった。
- (26)' a. 对友人们的**采访**  
(友人たちに対する取材)
- b. 对友人们**采访**  
(友人たちに対して取材する)
- (27) 海外も含めて投資家への説明はどんな状況だったか。
- (27)' a. 对投资家的**说明**  
(投資家に対する説明)
- b. 对投资家**说明**  
(投資家に説明する)
- (28) 今年に入ってから景気刺激策として税制改革への期待が高まっている。
- (28)' a. 对税制改革的**期待**  
(税制改革に対する期待)
- b. 对税制改革**期待**  
(税制改革に期待する)

(26) から (28) の日本語に対応する中国語 (26)' か

ら(28)'のうち、aは上の図8a、また、bは図8cのパターンに対応したものである。「非対応B型」と同じく、bの中国語形式には日本語の形式名詞「コト」に相当する形式は付加されないため、日本語としては不自然である。

### 3. 日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式：まとめ

以上、日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式の様々なパターンを見てきた。それらは、以下のようにまとめられる。

I. 日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式には、格助詞「へ」に相当する語、連体助詞「ノ」に相当する語を用いながら日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に忠実に対応する「対応型」と日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」には対応するとは言えない「対応なし型」がある。

II. 日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に忠実に対応する「対応型」の中国語の形式は、「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」における格助詞「へ」が中国語の介詞「対」、また、連体助詞「ノ」が中国語の構造助詞「的」に対応するものである。この「対応型」は極めて少なく、そのNP<sub>2</sub>は「視点」「視座」「観点」「立場」などに限られる。

III. 日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」には対応するとは言えない「対応なし型」は、さらに「非対応型」と「準対応型」に分けられる。

III-1. 「非対応型」はさらに「非対応A型」「非対応B型」「非対応AB型」に分けられる。

(a) 「非対応A型」とは、「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」が中国語の「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」に対応するものである。このとき日本語のNP<sub>2</sub>は「非出来事名詞」となる。

(b) 「非対応B型」とは、「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」が中国語の「介詞「対・給・向・到」(へ)+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>に対応する動詞」に対応するものである。このとき日本語のNP<sub>2</sub>は「出来事名詞」となる。

(c) 「非対応AB型」とは、「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」が中国語の「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」にも「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>に対応する動詞」にも対応するものである。「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」に対応する際、日本語のNP<sub>2</sub>は「非出来事名詞」、「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>に対応する動詞」に対応する際には、日本語のNP<sub>2</sub>は「出来事名詞」と解釈される。

III-2. 「準対応型」はさらに「準対応A型」「準対応B型」に分けられる。

(a) 「準対応A型」とは「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」が、中国語の「動詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」と非対応A型「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+動詞+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」のいずれにも対応するものである。このとき日本語のNP<sub>2</sub>は「非出来事名詞」である。

(b) 「準対応B型」とは日本語「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」が、中国語の「動詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+構造助詞「的」+NP<sub>2</sub>」と非対応B型「介詞「対・給・向・到」+NP<sub>1</sub>+NP<sub>2</sub>に対応する動詞」のいずれにも対応するものである。このとき日本語のNP<sub>2</sub>は「出来事名詞」である。

1.で述べたように、これまで日本語の「NP<sub>1</sub>+ヘノ+NP<sub>2</sub>」に対応する中国語の形式については、NP<sub>2</sub>が「モノ名詞」の場合に限定されており、「モノ名詞」以外の場合を扱った先行研究はなかった。本稿は、NP<sub>2</sub>が「モノ名詞」「ヒト名詞」の場合のみならず、いわゆる「出来事名詞」における中国語の対応形式も対象にし、当該のNP<sub>2</sub>は中国語の動詞に対応することを明らかにした。この結果は、中国語を母語とする日本語学習者に対して日本語の複合連体助詞「ヘノ」を教授する際の一助になると思われる。



## 注

- <sup>1</sup> 『現代日本語均衡コーパス』から抽出した「ヘノ」の名詞句を、筆者が母語の中国語に訳し作成したコーパス。なお、中国語の訳文は、筆者以外の中国語母語話者によるチェックを受けている。
- <sup>2</sup> 劉・潘・故(1988:220)によれば、“介詞”とは、名詞や代詞あるいは一部のフレーズの前に置かれて、介詞フレーズを構成し、動詞や形容詞を修飾するのに用いられる語を指す、とある。
- <sup>3</sup> 「ヘノ」の格助詞「へ」の機能に従い、対応する中国語の介詞は「对」のほか、対象を表す「给」、方向を示す「向」、到達点を表す「到」となる。
- <sup>4</sup> 劉・潘・故(1988:282)によれば、“構造助詞”とは、語と語を結びつけ、ある文法構造を持つフレーズに用いられる語を指す、とあり、“的”は定語とその中心語をそれぞれ結び付ける、と指摘されている。この「定語」は「NP<sub>1</sub>+的+NP<sub>2</sub>」の「NP<sub>1</sub>」、また、「中心語」はその「NP<sub>2</sub>」を指す。
- <sup>5</sup> ダッシュのついた例は対応するダッシュのついていない日本語の例の下線部分に対応する中国語を指す。
- <sup>6</sup> 本稿で言う「モノ名詞」とは、その直後に「する」をつけることのできない名詞である。一方、その直後に「する」をつけ動詞になることのできる動詞は「出来事名詞」とする。例えば、「支障」は「支障する」とは言えないので「モノ名詞」、一方、「負担」は「負担する」と言うことができるので「出来事名詞」ということになる。なお、場合によっては、その直後に「する」をつけることのできない名詞を「非出来事名詞」とまとめて呼ぶ。
- <sup>7</sup> 上述のように本稿では「する」をつけることのできる名詞を「出来事名詞」と呼ぶ。

## 参考文献

- <日本語の文献>
- 相原茂(1996)「中国語の品詞分類」『国文学 解釈と鑑賞』第61巻, 1号 pp.134-138.
- 相原茂(1996)「中国語の品詞の考え方」『中国文化:研究と教育』第67巻, pp.46-52.
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞:用法と実例』秀英出版
- 高橋太郎(2005)『日本語の文法』ひつじ書房
- 陳風(2009)『連体修飾の日中対照研究-限定的修飾を中心に-』星雲社
- 日本語教育学会編(1993)『日本語教育事典 縮刷版』大修館書店
- 文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』大蔵省
- 三宅登之(2003)「兼類について」『中国語』第522号, pp.62-64
- 三宅登之(2003)「動詞と名詞の境目」『中国語』第523号, pp.62-64
- 三宅登之(2007)「辞書における動詞と名詞の区分と提示すべき用例について」『東京外国語大学論集』第74号, pp.39-57
- 三宅登之(2012)『中級中国語 読みとく文法』白水社
- 水野義道(1993)「日本語の「の」と中国語の「的」」『日本語学』(12), pp.73-79
- 方美麗(2004)「中国語の「的」と日本語の「の」の意味用法の考察-日中対照研究-」『外国語教育論集』(26), pp.91-103
- 孫淑華(2004)「中国語の「的 de」と日本語の「の」の対応と非対応」『鳥取大学大学教育総合センター紀要』(1), pp.1-6
- 呂叔湘著(1992) 菱沼透・伊藤真佐子・上野由紀子・江田いづみ・平松正子訳『中国語用例辞典』東方書店
- 劉丹青著(2013) 杉村博文・大西博子・島村典子・鈴木慶夏・西香織・橋本永貢子訳『語順類型論と介詞理論』日中言語文化出版社

## &lt;中国語の文献&gt;

- 陆俭明(1994)「关于词的兼类问题」『中国语文』第1期(总第238期), pp.28-34
- 呂叔湘(1984)「关于汉语词类的一些原则性问题」『汉语语法论文集』, pp.230-279
- 劉月華・潘文娛・故鞏著(1988)『实用現代漢語語法』相原茂・片山博美・守屋宏則訳『現代中国語 文法総覧(上)』くろしお出版
- 朱德熙(1982)『语法讲义』商务印书馆
- 朱德熙(1982)『语法讲义』商务印书馆, 杉村博文・木

村英樹訳 (1995) 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』 白帝社

朱德熙 (1985a) 『语法答问』 商务印书馆, 中川正之・木

村英樹訳 (1986) 『文法のはなし—朱德熙教授の文法応答—』 光生館

朱德熙 (1985b) 「现代书面汉语里的虚化动词和动名词」  
『北京大学学报 (哲学社会科学版)』 第 5 期, pp.86-97

<辞書>

相原茂編 (2006) 『講談社日中辞典 第 1 版』 講談社

相原茂編 (2010) 『講談社中日辞典 第 3 版』 講談社

新村出編 (2018) 『広辞苑 (第七版)』 岩波書店

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之編 (2012) 『新明解国語辞典 (第七版)』 三省堂

北京・商務印書館, 小学館共同編集 (2001) 『中日辞典』 小学館

北京・对外經濟貿易大学, 北京・商務印書館, 小学館共同編集 (2006) 『日中辞典』 小学館

中国社会科学院言語研究所詞典編集室編 (2005) 『現代漢語詞典 (第 5 版)』 商務印書館

# Chinese expressions corresponding to the Japanese phrase "NP<sub>1</sub> +heno +NP<sub>2</sub> "

Yang Wenlan

This research focuses on the Japanese phrase "NP<sub>1</sub> heno NP<sub>2</sub>" and the Chinese forms corresponding to the Japanese "NP<sub>1</sub> +heno+NP<sub>2</sub>" based on the "Heno" Chinese-Japanese parallel translation corpus created by the author. With regards to NP<sub>2</sub>, this research takes not only object nouns, but also nouns such as event nouns into consideration. Through a comparison of the two languages concerning the composition of noun phrases, it is expected that the research will shed light on Chinese Japanese learners' acquisition of Japanese "heno" .